

令和 7 年 5 月 27 日

保護者各位

学校法人法城学園
理事長 三芳弘道

令和 6 年度教職員自己評価ならびに
学校関係者評価についてのご報告

保護者の皆さまには常日頃より幼稚園教育にご理解ご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、表題の件につきまして当園では「学校関係者評価委員会」を設置し、真の子どもの幸せを願い地域に根差した幼稚園運営を目指して園内の制度整備に取り組んでいるところです。

毎年年度末に行っている「教職員自己評価」の結果内容を「学校関係者評価委員会」にお諮りし、ご意見をいただく中で、教育の質と運営面の向上に役立てていくという目的です。

ちなみに委員会を構成していただく方は、以前の卒園生で地域代表の方 1 名、学識経験者として子育て相談室の小峰節子先生、保護者代表として 3 名、そして園側から園長並びに主任教諭の 7 名で組織し、「学校関係者評価委員会設置規則」にしたがって開催されます。

本紙面では、教職員自己評価をまとめたものと先般開かれた学校関係者評価委員会での評価シートをご報告させていただきます。参考としてご覧いただき、当園の教育活動についてさらにご理解を深めていただき、お気づきの点のご意見ご質問等を賜れば有難いです。

▼ 教職員自己評価(令和 6 年度分)

【具体的な重点目標や計画】

課 題	具体的な取り組み方法
①職員間の 情報共有	・園全体の子どもをみんなで理解する ・多角的に子どもを見るための情報交換
②主体性を 育む保育	・子どもの「やってみたい、楽しい」を引き出すために ・日常の中で子どもに考えさせる保育を展開するために
③保育の 質の向上	・子ども達のやってみたいを共有し、実現させるための援助を学ぶ ・保育の見せ合いと振り返りで互いの向上を図る

【評価項目の取組及び達成状況】

評価項目	結果	結果の理由
① 職員間の情報共有	B	多様性の尊重が世の中で叫ばれて久しくなりました。従来までの「〇〇らしさ」といった既成概念が時代とともに変化しています。その中で教師の子どもに対する見方について、ひとりの教師の思い込みや一方的な考えで偏った評価になる恐れを防ぐため、また教師の視野を広めるためにも教師同士の情報交換は欠かせないものになります。朝の戸外遊び、なかよしクラス活動などで学年を問わず様々な子どもと実際に関わったり、保護者の我が子に対する思いや接し方を見ながらその子の良い面を見つけていきます。とりわけ教師同士の会話の中で取り上げられる子どものエピソードは大切な情報源となります。当園の職員間では折に触れて個々の子どもの話題を取り上げ、話し合っている姿が多々見受けられます。それが遅くまで続くこともあって、いつも子どものことを考えてくれていることに管理者としてとてもうれしく思い、また有難く思っています。ただ、早く帰れる日にはメリハリをつけて切り上げて欲しいのも本音です。 新任教師やパート職員にとってフランクに情報交換するとは中々いかない面があるのも事実ですが、月例研修会のバズセッションなどの場で他の先生の見方、捉え方を聞いて少しずつ自分の保育スキルアップにつなげているところです。自己評価の結果にも見られるようにまだ十分に効果が上がっているとは言えませんが引き続き、ベテラン、中堅、新人、パートの壁を取り払って互いの向上のために意見や思いを伝え合い、情報だけでなく自分以外の保育者の価値観の尊重と共有に資していきたいと考えています。
② 主体性を育む保育	B	主体性を育む保育に重点を置き始めて数年が経ちました。まだまだ道半ばではありますが、その考え方が教師に浸透し、子どもの姿にも具体的な効果が表れ始めているのを感じます。年度初めのクラスの雰囲気を見ながら担任としてもこんなクラスにしていきたいという願いを秘めて、子どもの「やってみたい、楽しかった」という反応を引き出すために試行錯誤を繰り返してきました。どんな言葉がけをしたらよいか、どんな環境設定をしたらよいか、この活動が今後どのようなつながりをもって発展させられるか…決められたことを進めていくのとは違い、話し合いの中で子どもの意見や思いを取り入れながら進めることの難しさを各担任は感じていると思います。しかしそうしたことが子ども達の自発的な活動を促し、結果的に「してみたい、楽しかった」につながっていくものと確信します。今年度最後の大行事「発表会」では 1 学期から温めてきたことを積み重ね、各クラスのカラーがよく出た発表ができたと思います。 グループワークや話し合いの場でも最初は話好きの一部の子どもが盛んに発言しています。担任が消極的な子どもを援助し徐々に巻き込みながら、少しずつ周りの人に思いを伝えることに慣れさせていきます。年中児途中あたりからようやく「話し合い」と言える形になってきますが、それまでの過程の中で、人前で話すことに自信をつける経験を地道に重ねていく必要があります。年少、中、長のそれぞれの学年活動の中で人の話を聞く、自分の思いを伝える、やりたいことをまとめる、といった「話し合い」の基礎を身につけていきます。

③ 保育の 質の向上	B	そもそも「保育の質」とは子ども達が心身ともに豊かに生活できる環境や経験のことをいいますから、それを向上させるための取り組みとしては各教職員の努力はもちろんのこと、園としての働きかけや環境改善などが必要条件になってきます。この自己評価の結果から見えてくるものは、質向上の手掛かりになること大ですので、今後も教職員全体で共有し着実に改善に役立てていきたいと思います。 特に本年度は教員の資質・能力を引き上げるために園内研修の中で動画を用いて他クラスの保育を見たり、自分の保育を見てもらったりしながら意見や批評を受け、振り返りをしてきました。意見批評をもらうのは本人にとって苦痛に感じることもあるかもしれませんが、でも真に向上を願うのであれば、素直に受け入れたり、気づきを与えてくれたことへの感謝の気持ちにつなげる方がよほど自分のためになります。当事者以外の参加者が自分のこととして問題意識を持って臨めるとさらに理解が深まるとの意見もあり、課題は多いもののお互いよい刺激となり、勉強になっていると思います。ただ、定点からの動画撮影でしたので子ども達一人ひとりの細かい表情などが映し出されず、雰囲気や汲み取れない感じが反省点として出ました。 さらに副担任や加配、クラス付きの教諭についても自分の保育の客観的な評価を受ける機会がないため、定期的に担任と立場を入れ替えて保育計画のもとクラス経営を行ってみることも全体の底上げに資するものと思いますので今後検討してまいります。
---------------	---	--

〈関連園内研修〉

- 4/1 ・職場の環境重視 「先生の安定なくして子どもの安定なし」
 ・教職員の危機管理意識
 ・主体性を尊重する保育の実践 子どもに対してだけでなく教職員の主体性も重視
 ・救命救急対処法、AED使用法、緊急時用具の取り扱い実践
- 5/22 ・危機管理マニュアルについて
- 6/19 ・保育の見せ合い研修 対象：ゆり(林教諭)、ばら組(小出教諭)、たけ組(小島教諭)
 方法：それぞれの保育を動画撮影し、タブレットで共有
 事前に視聴し、ディスカッション
- 7/18 ・当園HP新調につき、内容説明、共通理解
- 9/2 ・夏休み中の自主研修振り返り
 ・川越市5歳児健診の導入について
- 10/23 ・園長所感 ～教育実習生を受け入れて～
 ・保育園・幼稚園のパラドックス 「便利」な保育園が奪う本当はもっと大切なもの
- 11/27 ・保育の見せ合い研修 対象：もも(大杉教諭)、あさがお組(内沼教諭)、まつ組(野口教諭)
- 1/7 ・幼児の防災教育について
 ・保育の見せ合い研修 対象：うめ(野村教諭)、
- 2/26 ・自己評価結果の考察 改善のための具体案検証
 ・保育の見せ合い研修 対象：きく(久保田教諭)

【具体的な目標や計画の総合的な評価結果】

結 果	理 由
B	6年度の3つの課題に対する具体的な取り組み方法に対して、各教員がそれぞれに意識しながら努力してきたので、おおむね達成できたと思います。あれもこれもやろうとすると中途半端になりがちなので、ポイントを絞って皆が共有しながら取り組めたのは大きな成果となりました。非常勤教員との連携もいろいろとアイテムを使いながら共通理解が図られてきました。 この数年「主体性」というテーマを掲げながらさまざまな研修を重ねてきましたが、実際に具体的に展開していくのは子ども達にとってもまた、教師にとっても難しいものです。やはり興味や楽しさ、充実感が得られないと前向きに取り組んでいけませんので、中身の下準備は大切です。さらに個々の進度に合わせて発展教材の用意をしたり、次の展開を子どもと一緒に考えていく柔軟さも必要です。この点ベテラン教諭と新人の経験の差が出てしまいましたが、それぞれの立場でしっかり目標をたてて着実に克服していくことが今後も求められます。また同時に子どもの発達段階の理解を深めながら目の前の子どもに合った保育内容を考慮していける力を身に付けていきたいものです。

※結果評価

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

【今後取り組むべき課題(令和7年度分)】

本年度も昨年と同じような課題内容になっています。今年は新卒の教員がおりませんので、これまで取り組んできたことを更に深く追求しながらそれぞれの課題を克服していきます。

課 題	具体的な取り組み方法
①主体性を育む保育	・主体的に活動できる環境を整える(考える) ・子どもたちが自ら考え、選び、決める機会を取り入れた計画と展開
②保育の質の向上	・子どもの個性や能力を引き出すための対応や援助 ・園内研修の実施や外部研修への参加
③子ども理解	・子どもの発達段階を理解し、個々に合わせた援助をする ・職員間での子どもの姿の共有(興味、性格、家庭状況など)
④仕事の効率化	・効率化させるための個々の意識の向上と具体的な実践

令和6年度 みよしの幼稚園 教職員自己評価集計結果

自己評価 A～D のいずれかに○をつけて下さい
 A…十分に達成されている
 B…ほぼ達成されている
 C…重要な点で成果が上がっていない
 D…全体として成果が上がっていない

[評価項目]

単位：％

1. 教育理念	A	B	C	D
・園の教育方針を理解している	41	55	4	0
・幼稚園教育要領の特性を理解している	20	76	4	0

2. 保育の計画性	A	B	C	D
・発達の特性を踏まえながら教育課程に基づき、指導計画・月案・週案を計画し、保育を展開している	21	79	0	0
・指導計画は、常に見直しを行ない、子どもの発達・クラスの幼児の実態などをもとに考え作成している	11	79	10	0
・指導計画は、子どもの主体性を尊重し作成されている	35	65	0	0
・自分なりに標記の仕方を工夫し課題をもった内容になるように努力している	20	65	15	0
・5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を踏まえてバランスよく計画している	15	80	5	0

3. 保育の実践	A	B	C	D
・一人ひとりの子どもをよく観察している	31	61	8	0
・子どもの話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めようとしている	50	46	4	0
・子ども自身に考えさせたり意思を尊重するために適切な発問や環境設定がなされている	28	68	4	0
・子ども同士のトラブルに対し、適切な対応をしている	27	65	8	0
・子どもの人権を無視したり、体罰を加えるようなことはどんな場合でもしていない	85	42	0	0
・子どもを自分の一方的な感じ方や捉え方で決めつけないようにしている	58	42	0	0
・子どもの姿を多面的に捉えることができる	16	80	4	0
・子どもについて常に教師同士で話し合い、クラス、学年を超えて情報交換する機会がある	48	44	8	0
・互いに保育を見せ合って検討し、評価反省を加え保育向上につなげている	13	61	22	4
・独断で行動せず、事前相談、事後報告をしている	56	40	4	0
・クラスの運営や子どもの生活または育ちを適切に記録している	9	73	18	0
・クラスの実態を踏まえ、新たな保育内容にチャレンジまたは模索している	23	59	18	0
・身の清潔・衛生や食事のマナーなどを含めた基本的生活習慣について保育者間で共通理解をして具体的に指導している	48	40	12	0
・危険が予測される場合には、子ども達と一緒に見たり考えたりなどして、安全な使い方や遊び方について気付くことができるようにしている	46	54	0	0
・失敗や反省を踏まえ、次の日の保育に生かす工夫をしている	42	46	12	0

4. 学級経営	A	B	C	D
・保育室内の整理整頓を心がけ、清潔に管理されている	35	42	23	0
・子どもの動線を考え、安全に配慮した環境になっている	27	69	4	0
・出席簿、週日案等は毎日正確に記入している	32	50	18	0
・配布物、手紙等はすぐに目を通し適切に対応している	42	50	8	0
・保護者からの提出物、現金など注意深く管理している	84	16	0	0
・保育室内の換気、室温、湿度などに気をつけている	58	42	0	0

5. 保育能力向上	A	B	C	D
・自分の保育の課題点を理解している	13	87	0	0
・自分の課題改善策に何が必要かを理解し、目標化している	4	78	18	0
・園の理念を理解し、自らの保育の質を高めようとしている	23	77	0	0
・研修会や研究会には課題をもって進んで参加している	18	55	27	0

6. 保護者とのかわり	A	B	C	D
・子どもの変化や出来事、日常の様子をできる限り保護者に伝えている	39	57	4	0
・保護者からの依頼や質問、相談などには適切に対応している	52	48	0	0
・家庭との連携が不可欠であることを認識し、保護者との情報交換に努めている	57	43	0	0
・保護者からの意見、要望については安易に受けたり、断ったりせず、上司に報告・相談をしている	88	12	0	0
・個々の子どもや保護者、家族の情報は口外していない	92	8	0	0
・保護者との接し方は平等になるよう心掛けている	73	27	0	0
・保護者に対して節度をもって丁寧な言葉で話している	69	31	0	0
・園に関することについて、みだりにまたは不確かな理解のままに保護者へ話したりしていない	92	8	0	0
・すべての保護者に対し、挨拶や礼節を心掛けている	81	19	0	0
・クレームに対して誠意をもって迅速に対応している	83	17	0	0
・適切な判断が求められる場合などは、上司に相談・報告している	88	12	0	0

7. 安全・衛生管理	A	B	C	D
・園内に危険な物、壊れた物はないか常に観察し、発見次第報告している	42	58	0	0
・園内での火災、災害、事故、事件などの危機に関して、その対応を理解している	27	65	8	0
・消火器、非常ブザー、救命機器などの位置を把握し、使い方を理解している	15	74	11	0
・飲食物、アレルギー食の保管や配膳には十分配慮している	83	13	4	0
・救急薬品、清掃用薬品の保管、取り扱いには十分配慮している	60	40	0	0
・事故やケガがあった時は迅速かつ適切に責任をもって対応している	64	32	4	0
・事故やケガの状況や原因を把握し、上司、保護者に報告している	64	36	0	0
・事故やケガについては記録している	35	52	9	4
・常に人数確認には気をつけている	72	24	4	0

・相応の危機管理意識を持っていると思う	26	74	0	0
---------------------	----	----	---	---

8. 子育て支援	A	B	C	D
・子育てに悩んでいる保護者の心情を理解し、寄り添うことができる	23	64	13	0

9. 期待される望ましい保育者像	A	B	C	D
・クラスの関係なく、その場にいた教師が適切な言葉かけや対応をしている	58	42	0	0
・幼稚園教諭として専門知識や技能を身につけようと努めている	24	72	4	0
・子どもの性格や個性を把握するよう努め、保護者とコミュニケーションがとれる	33	63	4	0
・仕事の手順を考え、優先順位を見極め能率よく行っている	23	62	15	0
・何かしてもらったら感謝の気持ちを言葉などで表している	74	26	0	0
・クラス全体の動きを常に把握している	35	65	0	0
・保育時間外でも保育者としての誇りと自覚をもった言動を心掛けている	36	64	0	0
・その場に適した言動をとることができる	24	76	0	0
・服装、髪型、身だしなみなど、清潔感あるものを心掛けている	52	48	0	0
・園の消耗品や教材は大切に使い、後で使う人が使い易いようにしている	55	41	4	0
・職務上知り得たプライバシーに関する情報などの秘密は厳守している	85	15	0	0
・重要書類や個人情報にかかわる資料等は確実に保管している	72	28	0	0
・教材、教具の管理、点検に気を配っている	30	48	22	0
・ミスした内容については必ず上司に報告している	80	20	0	0
・提出物は期限内に提出している	63	30	7	0
・出勤時刻を厳守している	63	33	4	0
・教職員全員でひとつのチームであることを意識している	78	22	0	0
・他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる	38	50	12	0
・クラス的环境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換している	41	41	18	0
・当番や担当などの仕事の分担は責任をもって実行している	56	44	0	0
・教職員のプライバシーや園に関することをみだりに他へ話していない	89	11	0	0

アンダーライン部分:成果の上がっていない課題項目

学校評価シート(学校関係者評価)

幼稚園 学校関係者評価委員会
日 時 令和7年 5 月 26 日(月)
11:00~12:30 (時間)
出席者 評価委員(7 人)

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

前年度の課題取組み、教職員評価などを踏まえ、業務の内容・実施面において、

① 職員間の情報共有 ② 主体性を育む保育 ③ 保育の質の向上

の三つの取組み課題を挙げており、設定は適切であった。

2. 評価結果の内容は適切であったか

評価内容については、①職員間の情報共有では、子どもの話題を取り上げ教師同士の情報交換をすることにより、教師の視野を広め保育技術の向上につなげることができた。②主体性を育む保育では、この考え方が教師に浸透し始めており、発表会での子どもの自発的な活動がみられ、その効果が出てきている。③保育の質の向上では、教師自身の努力、動画を活用した研修、教師同士の助言など質の向上に取り組むことができた、

3. 今後(令和7年度)取り組むべき課題は適切に設定されているか

令和6年度の取組み課題、教職員評価などを踏まえて、令和7年度に取り組むべき課題を、

① 主体性を育む保育 ② 保育の質の向上 ③ 子ども理解 ④ 仕事の効率化

の4つの課題を挙げており、適切に設定されている。

4. 今後(令和7年度)取り組むべき課題は適切に行われているか

令和7年度の4つの取り組むべき課題について、現時点(5月)まで具体的な取り組みを少しずつ行っている。